

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 1 区分
【発行日】令和 7 年 6 月 30 日(2025.6.30)

【公開番号】特開 2024-12384(P2024-12384A)
【公開日】令和 6 年 1 月 30 日(2024.1.30)
【年通号数】公開公報(特許)2024-018
【出願番号】特願 2023-183876(P2023-183876)
【国際特許分類】

H 0 1 B 5/14(2006.01)
B 3 2 B 7/025(2019.01)
G 0 2 F 1/13(2006.01)
G 0 2 F 1/1343(2006.01)

10

【F I】

H 0 1 B 5/14 A
B 3 2 B 7/025
G 0 2 F 1/13 5 0 5
G 0 2 F 1/1343

【手続補正書】

20

【提出日】令和 7 年 6 月 20 日(2025.6.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光透過性基材と、光透過性導電層とを備える光透過性導電フィルムであって、

前記光透過性導電層は、結晶質領域および非晶質領域を有し、

30

前記光透過性導電層における前記結晶質領域の占める面積は、0.5%以上、25%以下であり、

前記光透過性導電層における結晶粒の最大長が、1nm以上、200nm以下であり、

前記光透過性導電層を大気雰囲気中で 80、240 時間の条件で加熱した際における結晶粒の最大長が、200nm 以下であることを特徴とする、光透過性導電フィルム。

【請求項 2】

前記光透過性導電層が、インジウムスズ複合酸化物層であり、

前記光透過性導電層において、酸化スズおよび酸化インジウムの合計量に対して、前記酸化スズの含有量は、8質量%以上であり、

前記光透過性導電層の厚みは、30nm 以上であることを特徴とする、請求項 1 に記載の光透過性導電フィルム。

40

【請求項 3】

前記光透過性導電フィルムにおける透過率 T_0 と、前記光透過性導電フィルムを大気雰囲気中で 80、240 時間の条件で加熱した際における透過率 T_1 との変化率が、1.0% 以下であることを特徴とする、請求項 1 に記載の光透過性導電フィルム。

【請求項 4】

調光用光透過性導電フィルムである、請求項 1 に記載の光透過性導電フィルム。

【請求項 5】

第 1 の光透過性導電フィルムと、調光機能層と、第 2 の光透過性導電フィルムとを順に備え、

50

前記第 1 の光透過性導電フィルムおよび / または前記第 2 の光透過性導電フィルムは、請求項 1 に記載の光透過性導電フィルムであることを特徴とする、調光フィルム。

10

20

30

40

50